学校番号	3010

令和5年度 理科 科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2 単位	年次	2 年次
使用教科書	高等学校 生物基礎(啓林館出版)						
副教材等	二訂版ニューステージ生物図表(浜島書店出版)						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

『生物とは何か』というテーマのもと、様々な生物や生物現象について科学的に探究していく学問です。遺伝子の仕組みから体内環境、さらには生物の多様性まで幅広く基本的な概念を学んでいきます。毎回の授業でしっかりと学習し、所定の提出物をきちんと提出するなど、自らが主体的に授業に取り組むように心がけましょう。

履修条件

なし

2 学習の到達目標

・生物の多様性を踏まえつつ、生物に共通する概念や原理・法則を理解する。
・遺伝子・健康・環境など、日常生活や社会とのかかわりを考えるために必要な科学的素養を高める。
・多様性と共通性という2つの視点から、生物や生命現象を探求する方法や姿勢を身に付ける。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。また、基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身につけている。 学んだ内容を関連付けて整理され定着している。 知識を用いて発展的な応用ができる。	自然の事物・現象のなかに問題を見いだし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。 授業内容について科学的な捉え方ができる。	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち，意欲的にそれらを探究しようとするとともに，科学的態度を身につけている。 講義式，実験式いずれの授業においても主体的に行動する。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	生物の特徴と遺伝子	・生物の共通性と多様性 ・生物とエネルギー ・遺伝情報とDNA	a：すべての生物にみられる生命活動に必要な構造やその仕組みを理解ことができる。 b：多様性と共通性をとらえ，考えることができる。生命活動に必要なエネルギーと代謝の仕組みについて多角的にとらえることができる。 c：生物について理解しようと意欲的に取り組む。 顕微鏡観察を実験上の注意点に留意しながら行うことができる。	定期考査 提出物 確認テスト	定期考査 提出物 確認テスト	学習状況 提出物
2	遺伝子の働き・神経系と内分泌系	・遺伝情報とタンパク質の合成 ・情報の伝達 ・体内環境の維持のしくみ	a：セントラルドグマや体内環境を維持するしくみについて理解することができる。 b：DNAの情報に基づいてタンパク質が合成を表現することができる。 体内環境の維持に必要な、自律神経とホルモンの仕組み説明することができる。 c：生体内の仕組みについて理解しようと意欲的に取り組む。	定期考査 提出物 確認テスト	定期考査 提出物 確認テスト	学習状況 提出物
3	免疫と生態系	・免疫の働き ・植生と遷移 ・生態系と生物の多様性 ・生態系のバランスと保全	a:免疫の働きや世界及び日本の植生と生態系について理解することができる b：感染症の蔓延・生態系の損失などを学習した内容と照らし合わせ、自分のするべきことを判断することができる ｃ：免疫の仕組み・生態系について理解しようと意欲的に取り組む。	定期考査 提出物 確認テスト	定期考査 提出物 確認テスト	学習状況 提出物

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度